

ブラジル

家畜寄生虫総合診断 技術の改善

実施地域

サルヴァドール



1. プロジェクト要請の背景

ブラジル東部に位置するバイア州では、牧畜業が広範な地域で大規模に展開されているが、衛生管理の悪さを起因とする疾病の発生などにより、生産性が低い。このため、ブラジル政府は、家畜の疾病に関する総合的診断法が発達している我が国に対し、州内への家畜病情報提供の役割を担うバイア州連邦大学獣医学部における研究推進のための技術協力を要請した。

2. プロジェクトの概要

(1) 協力期間

1995年12月1日～1998年11月30日

(2) 援助形態

個別専門家チーム派遣

(3) 相手側実施機関

バイア連邦大学獣医学部

(4) 協力の内容

1) 上位目標

バイア州における家畜の生産性が向上する。

2) プロジェクト目標

バイア州連邦大学獣医学部において、寄生虫症の診断技術向上のための基盤を整備する。

3) 成果

- バイア州の寄生虫の発生状況を正確に把握する。
- バイア州連邦大学獣医学部のスタッフが、寄生虫学、生化学、免疫学分野から寄生虫症の診断技術を習得する。
- バイア州連邦大学獣医学部において、導入された診断技術を用いて家畜病研究が実施される。

4) 投入

日本側

- 長期専門家 1名
- 短期専門家 5名
- 研修員受入 9名
- 研究用機材 (顕微鏡、山羊飼育施設等) 薬剤等の供与

ブラジル側

- カウンターパート
- 研究施設・機材
- 運営経費

3. 調査団構成

JICA ブラジル事務所

(現地コンサルタント: Thelma Maria Saueressing氏に委託)

4. 調査団派遣期間(調査実施時期)

1997年10月29日～1997年10月30日

5. 評価結果

(1) 効率性

短期専門家の派遣期間について、バイア連邦大学側からは短すぎたというコメントがあるが、専門家の派遣、機材の供与、カウンターパートの日本研修は、その内容、量、タイミングとも、おおむね適切であったと思われる。本プロジェクトに対する大学側の意欲、有能なカウンターパート、適切なカリキュラムや教材、長期専門家のリーダーシップ等が、本プロジェクトの目標達成に貢献した。

(2) 目標達成度

本プロジェクトの実施を通じ、バイア州連邦大学獣医学部は、寄生虫疾患を判定する最高水準のレファレンス研究室として整備された。またカウンターパートは、家畜寄生虫症の診断に関する最新の知識・技術を習得し、能力を向上させた。

このように、研究室の整備と人材育成が図られた結果、同学部では寄生虫学、生化学及び免疫学を応用した寄生虫症のより正確な診断技術が確立されており、本プロジェクトの目標は達成された。

(3) 効果

専門家からの技術移転に加え、上級学位の取得を奨励されたカウンターパートは、各自の研究を進展させている。本プロジェクトの実施により、最高水準の研究室の整備と教授陣の育成が行われた結果、獣医学部は州政府からの支援も得られるようになり、動物衛生に関する中核研究機関としての立場が築かれつつある。また、同学部では、動物衛生分野に焦点をあてた修士課程の再活性化と学位の授与を図り、教育活動も活発化させている。

獣医学部では、本プロジェクトを通じ確立された診断技術をもとに、家畜飼育者への指導と研究室における疾病の判定サービスを展開しており、特に人獣伝染病の判定を支援することによって、汚染リスクの削減に貢献している。

(4) 計画の妥当性

本プロジェクトは、バイア州の主要産業である牧畜業の生産性向上に長期的に寄与するものであり、同州の経済発展ニーズに対応しており、妥当であると考えられる。

(5) 自立発展性

バイア州連邦大学の組織は整備されており、獣医学部の人材育成、機材の維持管理・活用状況を見ても、自立発展性は高い。特に予算面では、ブラジル連邦政府からの予算のほか、他の農牧畜業関連団体からの財源もある。同大学では、現在、実験動物の飼育センターを建設中であり、本分野の活動は拡大している。

6. 教訓・提言

(1) 提言

本プロジェクトの目標は達成されたが、確立・普及された診断技術の応用判定に関する研究を支援するため、協力を継続することが望ましい。



家畜寄生虫病実験室にて技術指導



獣医学部長より感謝状を受け取る上野専門家

7. フォローアップ状況

本プロジェクトの成果を周辺諸国に普及するため、2000年度より、第三国集団研修を開始する予定である。